

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23310178

研究課題名(和文) ポストコロニアル・インドにおける社会運動と民主主義

研究課題名(英文) Social Movements and Democracy in Postcolonial India

研究代表者

石坂 晋哉 (Ishizaka, Shinya)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授

研究者番号：20525068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円、(間接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インド社会運動の特徴とその動態を捉えることを目指し、ポストコロニアルという視点と、インド民主主義の諸制度と運動との関係に着目することに留意して、11名のメンバーがそれぞれ事例分析を進めた。その結果、運動がカーストをはじめとする社会集団の糾合や個別化の力学により展開してきた側面や、独立後の運動が植民地期の出来事に影響を受けつつ生起していた側面などを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to clarify the major characteristics of Indian social movements. Each of the eleven members of this project team analyzed a case study from the postcolonialist perspective and focused on the relationship between democratic institutions and social movements in India. The case studies reveal that the development of Indian social movements was intertwined with the dynamics of alignment and division of social groups, such as castes, and that many movements in the postcolonial era originated in the colonial era.

研究分野：総合人文社会

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：南アジア 社会運動

### 1. 研究開始当初の背景

従来インド社会運動研究は、植民地期の運動を扱う歴史学的研究と、独立(1947年)以後の運動を対象とする社会学的・政治学的・人類学的研究とに分断されていたため、両者の間の相互参照や、独立前後を含む長期のスパンで諸運動の展開を捉える分析がほとんどなされてこなかった。

また、これまで、個別の運動をめぐる事例分析は、各運動の要求内容や展開過程を具体的に明らかにするとともに、「抑圧から解放へ」「ネガティブなスティグマからポジティブなアイデンティティへ」といったストーリーを実証的に描いてきたとはいえ、全体として、インド民主主義の展開という文脈のなかで社会運動を理解しようとする視点がほとんどみられなかった。

### 2. 研究の目的

本研究は、インド社会運動の特徴とその動態を、特にインド民主主義の発展と関連づけて歴史的に捉え直すことを目的とした。そのために、学際的(歴史学・社会学・政治学・人類学)なメンバー構成の下、ポストコロニアルという視角から、運動の長期的展開(植民地期から独立後へ)を捉えることにより、従来インド社会運動研究の分断状況の克服を目指した。その際に、とりわけ、植民地主義的な認識的・制度的枠組がインドの社会運動に与えてきた影響に注目した。さらに本研究では、インド民主主義の諸制度(議会、司法など)と社会運動との関係性に注目して分析を進めた。

### 3. 研究の方法

(1)メンバー全員で、以下の視座と枠組を共有した。

ポストコロニアルという視角から、インド社会運動の長期的展開を捉えること。

ポストコロニアルという視角から、植民地主義的な認識的・制度的枠組がインド社会運動に与えてきた影響に注目すること。

インド民主主義の諸制度(議会、司法など)と社会運動との関係性に注目すること。

(2)インドでの現地調査(文書館での資料収集や、フィールドワークでのインタビュー・参与観察など)にもとづき、以下の分担で事例分析を行った。

農民運動：小嶋常喜(研究協力者)

「不可触民」運動：志賀美和子

産児制限運動：松尾瑞穂

地域主義運動：杉本浄

仏教改宗運動：舟橋健太

マオイスト運動：中溝和弥(研究協力者)

トライブ運動：木村真希子

ダリト運動：鈴木真弥(研究協力者)

チベット難民運動：山本達也(研究協力者)

環境運動：石井美保

総括：石坂

(3)なお、研究開始当初はインド社会運動の数量的把握をめざして関連文献のレビューや各種データの整理を行ったが、資料的制約により、断念することとした。

(4)インド社会運動研究会を計13回開催し、各メンバーがそれぞれ研究の途中経過を報告し合って議論を深めた。また、研究成果をまとめた本を刊行するため、各章の原稿執筆を進めた。

### 4. 研究成果

(1)インド社会運動の特徴とその動態について

インドの社会運動がカーストをはじめとする社会集団の糾合や個別化の力学により展開してきていた側面や、独立後の運動が植民地期の出来事に影響を受けつつ生じていた側面などを明らかにすることができた。

本研究の成果は、2015(平成27)年2月末までに、石坂晋哉編『インドの社会運動と民主主義』という本にまとめて刊行する予定である。

(2)国内外へのインパクト

各メンバーは、本研究の全体構想やその一部を、論文や学会・研究会での頻繁な発表を通じて、日本語、英語で発信を試みた。3年間で計13回開催したインド社会運動研究会での発表のほか、2011(平成23)年度には、10月にアジア政経学会で木村と中溝がパネルを組んで成果を発表した(学会発表の25、28)。2012(平成24)年度には、10月にエディンバラ大学で石坂と舟橋が国際ワークショップを企画・開催して成果を発表し(学会発表の16、17、21)。そこでの議論は学術雑誌の特集号として刊行された(雑誌論文の5、6、11)。2013(平成25)年度には、6月にマカオで開催されたICAS8において、石井、石坂、松尾と、鈴木、舟橋がそれぞれパネルを組織し、山本が成果を発表した(学会発表の2、4、5、8、9、12)。

本研究の3年間の研究成果は、2014(平成26)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費を受けて、2015(平成27)年2月末までに『インドの社会運動と民主主義』というタイトルで昭和堂から刊行される見込みである。

なお、本研究において、インド社会運動による多様な権利要求・行使のミクロな様態と法制度をはじめとするマクロな統治構造との関係性の分析を行ったが、それをさらに進展させるため、新しい科研「現代南アジアにおける法と権利の動態をめぐる研究 国制・権利・法秩序」(研究代表者：山本達也)が今年度から発足した。石坂、木村、鈴木、舟橋、山本はここでも本研究をさらに発展させる予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

- (1)中溝和弥 2014「危機の政治史—独立インドにおける危機の克服」『年報政治学 2013-II 危機と政治変動』2013(2): 62-85 査読有
- (2)石井美保 2013「神霊が媒介する未来へ—南インドにおける開発プロジェクトとブータ祭祀」『社会人類学年報』39: 1-28 査読有
- (3)Ishii, Miho, 2013, “Playing with Perspectives: Spirit Possession, Mimesis, and Permeability in the Buuta Ritual in South India,” *The Journal of the Royal Anthropological Institute* 19: 795-821 査読有 DOI: 10.1111/1467-9655.12065
- (4)Ishizaka, Shinya, 2013, “A Revival of Gandhism in India?: *Lage Raho Munna Bhai* and Anna Hazare,” *INDAS Working Papers* 12: 1-13 査読無 URL: <http://hdl.handle.net/2433/178768>
- (5)Ishizaka, Shinya, 2013, “Re-evaluating the Chipko (Forest Protection) Movement in India,” *The South Asianist: Journal of South Asian Studies* 2(1): 9-27 査読無 <http://www.southasianist.ed.ac.uk/article/view/144>
- (6)Ishizaka, Shinya and Kenta Funahashi, 2013, “Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia,” *The South Asianist: Journal of South Asian Studies* 2(1): 3-8 査読無 <http://www.southasianist.ed.ac.uk/article/view/143>
- (7)門田岳久・杉本浄 2013「運動と開発—1970年代・南佐渡における民俗博物館建設と宮本常一の社会的実践」『現代民俗学』5: 33-49 査読有
- (8)Kimura, Makiko, 2013, “Ethnic Conflict and Violence towards Internally Displaced Persons: A Case-Study of Bodoland Movement and Ethnic Clash,” *International Journal of South Asian Studies* 5: 113-129 査読有
- (9)小嶋常喜 2013「新自由主義経済とインド農業・農民の危機」『経済』214: 112-123 査読無
- (10)志賀美和子 2013「非バラモン運動における平等言説と『不可触民』—普遍化と独自性をめぐるジレンマ」『専修大学人文科学研究月報』267: 17-41 査読無
- (11)Funahashi, Kenta, 2013, “Living as a ‘Minority’: A Case of Buddhist-Dalits in Contemporary Uttar Pradesh,” *The South Asianist: Journal of South Asian Studies* 2(1): 28-39 査読無 <http://www.southasianist.ed.ac.uk/article/view/145>

- (12)Ishii, Miho, 2012, “Acting with Things: Self-poiesis, Actuality, and Contingency in the Formation of Divine Worlds,” *HAU: Journal of Ethnographic Theory* 2(2): 371-388 査読有 <http://www.haujournal.org/index.php/hau/article/view/hau2.2.019>
- (13)木村真希子 2012「社会運動と集会的暴力—アッサムの反外国人運動と『ネリーの虐殺』を事例に」『現代インド研究』2: 21-34 査読有 <http://hdl.handle.net/2433/167513>
- (14)中溝和弥 2012「弱者と民主主義—インド民主主義 60年の実践」『日本比較政治学会年報 現代民主主義の再検討』14: 221-245 査読有
- (15)中溝和弥 2011「暴動と経済—インドにおける民主主義と『暴力の政治』」『国際政治』165: 30-43 査読有
- (16)Shiga, Miwako, 2011, “Secularism as ‘Purification of Hinduism’: Religious Reform in Twentieth-century Madras Presidency,” *International Journal of South Asian Studies* 4: 55-72 査読有

[学会発表](計30件)

- (1)志賀美和子 2014「『マジョリティの温情』が保証する人権?—インドにおける差別問題にみる法と人権」歴史学研究会総合部会例会、慶應義塾大学(東京都)
- (2)Ishii, Miho, 2013, “Embodied Spirits in Industry: Spirit Possession, the Anti-development Movement, and the Special Economic Zone in South India,” *International Convention of Asia Scholars* 8, June 25, 2013, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China
- (3)Ishii, Miho, 2013, “The Chiasm of Machines and Spirits: Buuta Worship, Mega-Industry, and Embodied Environment in South India,” *The 112th American Anthropological Association Annual Meeting*, November 20, 2013, Hilton, Chicago, USA
- (4)Ishizaka, Shinya, 2013, “Re-inventing a Traditional Method of Nonviolent Action: Fasts in Indian Social Movements,” *International Convention of Asia Scholars* 8, June 25, 2013, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China
- (5)Suzuki, Maya, 2013, “Quest for a Legendary Past, Empowerment and Today’s Identity: The Balmiki Community in Delhi,” *International Convention of Asia Scholars* 8, June 25, 2013, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China
- (6)Suzuki, Maya, 2013, “Revisiting Affirmative Action in Contemporary India,” 第86回日本社会学会大会、2013年10月12日、慶應義塾大学(東京都)
- (7)中溝和弥 2013「暴力と市民社会—インド・グジャラート州の事例」アジア政経学

- 会 2013 年度全国大会、2013 年 6 月 16 日、立教大学（東京都）
- (8) Funahashi, Kenta, 2013, “A Saint as the Connecting Point: Case of Ravidas among Buddhist-Dalits in Contemporary Uttar Pradesh,” International Convention of Asia Scholars 8, June 25, 2013, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China
- (9) Matsuo, Mizuho, 2013, “Uncertain Bodies and Bodily Experiences in Birth Control Movements in India,” International Convention of Asia Scholars 8, June 25, 2013, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China
- (10) 松尾瑞穂 2013「インドにおける断食と自己犠牲のポリティクス」日本宗教学会第 72 回学術大会、2013 年 9 月 7 日、國學院大学（東京都）
- (11) 山本達也 2013「真言を商品化する—チベット難民社会を取りまく『ワールド・ミュージック化』の試み」『宗教と社会』学会第 21 回学術大会、2013 年 6 月 15 日、皇學館大学（三重県）
- (12) Yamamoto, Tatsuya, 2013, “How Can a Musician Succeed in the Society of the Tibetan Diaspora: A Case Study of Musical Creation in the Global Era,” International Convention of Asia Scholars 8, June 24, 2013, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China
- (13) Yamamoto, Tatsuya, 2013, “Taming the Western Musical Rhythm: Bodies of Tibetan Pop Musicians and the Refracted Globalization,” The 13th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, July 27, 2013, National University of Mongolia, Ulaanbaatar, Mongolia
- (14) 山本達也 2013「音楽から難民社会を見るということ、あるいはチベット関係サブカルチャー理解の脱構築」日本チベット学会チベット学情報交換会、2013 年 11 月 17 日、高野山大学（和歌山県）
- (15) 石井美保「開発と神霊—南インドのプータ祭祀における野生、機械、環境ネットワーク」日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012 年 6 月 23 日、広島大学（広島県）
- (16) Ishizaka, Shinya, 2012, “Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia,” Japan-Edinburgh Workshop “Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia,” October 17, 2012, University of Edinburgh, Edinburgh, UK
- (17) Ishizaka, Shinya, 2012, “Re-evaluating the Chipko (Forest Protection) Movement in India,” Japan-Edinburgh Workshop “Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia,” October 17, 2012, University of Edinburgh, Edinburgh, UK
- (18) 木村真希子 2012「南アジアの紛争地におけるマイノリティ女性への複合差別」日本国際政治学会、2012 年 10 月 20 日、名古屋国際会議場（愛知県）
- (19) 杉本浄 2012「19 世紀における地質学調査と鉱山開発—英領インド・オリッサ及び諸藩王国を事例に」日本南アジア学会第 25 回全国大会、2012 年 10 月 6 日、東京外国語大学（東京都）
- (20) 舟橋健太 2012「近現代インドの仏教にみる『社会性』—B. R. アンベードカルの仏教解釈から現代インドの仏教改宗運動まで」『宗教と社会』学会第 20 回学術大会、2012 年 6 月 17 日、長崎国際大学（長崎県）
- (21) Funahashi, Kenta, 2012, “Living as a ‘Minority’: A Case of Buddhist-Dalits in Contemporary Uttar Pradesh,” Japan-Edinburgh Workshop “Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia,” October 17, 2012, University of Edinburgh, Edinburgh, UK
- (22) 松尾瑞穂 2012「インドにおける代理母のネットワーク形成—『組織型』と『非組織型』代理出産の比較検討」第 46 回日本文化人類学会研究大会、2012 年 6 月 24 日、広島大学（広島県）
- (23) 松尾瑞穂 2012「擬似的家族関係の構築—インドにおける代理懐胎の人類学的研究」日本南アジア学会第 25 回全国大会、2012 年 10 月 6 日、東京外国語大学（東京都）
- (24) 山本達也 2012「舞台裏の歌い手たち—チベット難民ポップ・ミュージシャンを事例に」日本南アジア学会第 25 回全国大会、2012 年 10 月 6 日、東京外国語大学（東京都）
- (25) 木村真希子 2011「『紛争解決』と州政治における暴力」2011 年度アジア政経学会全国大会、2011 年 10 月 15 日、同志社大学（京都府）
- (26) 杉本浄 2011「インド独立後の州再編の動きとオリッサ州」日本南アジア学会第 24 回全国大会、2011 年 10 月 2 日、大阪大学（大阪府）
- (27) Nakamizo, Kazuya, 2011, “Economy and Social Conflict: Comparative Analysis between Bihar and Gujarat,” The 11th Conference of Indian Congress of Asian & Pacific Studies, September 5, 2011, Institute of Development Studies, Jaipur, India
- (28) 中溝和弥 2011「少数派と暴力—インド民主主義の制度と実践」2011 年度アジア政経学会全国大会、2011 年 10 月 15 日、同志社大学（京都府）
- (29) 松尾瑞穂 2011「与え、与えられる—インドにおける商業的代理出産と互酬性」第 23 回日本生命倫理学会、2011 年 10 月 16 日、早稲田大学（東京都）
- (30) 山本達也 2011「伝統文化を『見せる』—北インド在住チベット難民芸能集団のメディア活用の試み」日本文化人類学会第 45 回研究大会、2011 年 6 月 12 日、法政大学（東京都）

〔図書〕(計10件)

- (1)舟橋健太 2014 『現代インドに生きる 改宗仏教徒 ―新たなアイデンティティを求める「不可触民」』昭和堂、272p
- (2)上村英明・木村真希子・塩原良和編 2013 『市民の外交―先住民族と歩んだ30年』法政大学出版局、212p
- (3)Kimura Makiko, 2013, *The Nellie Massacre of 1983: Agency of Rioters*, New Delhi: Sage, 168p
- (4)松尾瑞穂 2013 『ジェンダーとリプロダクションの人類学―インド農村社会の不妊を生きる女性たち』昭和堂、316p
- (5)松尾瑞穂 2013 『インドにおける代理出産の文化論―出産の商品化のゆくえ』風響社、56p
- (6)山本達也 2013 『舞台の上の難民―チベット難民芸能集団の民族誌』法蔵館、414p
- (7)Tanabe, Akio, Kazuya Nakamizo, *Shinya Ishizaka*, Chie Fukuuchi (eds), 2012, *Development, Environment and Socio-political Transformation in South Asia : Diversity and Sustainable Humanosphere in Contemporary Dynamism*, Center for the Study of Contemporary India, Graduate School of Asian and African Area Studies and Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University 101p
- (8)東長靖・石坂晋哉編 2012 『持続型生存基盤論ハンドブック』京都大学学術出版会、552p
- (9)中溝和弥 2012 『インド 暴力と民主主義―党優位支配の崩壊とアイデンティティの政治』東京大学出版会、359p
- (10)磯前順一・山本達也編 2011 『宗教概念の彼方へ』法蔵館、445p

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

石坂 晋哉 (ISHIZAKA, Shinya)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授  
研究者番号：20525068

### (2)研究分担者

石井 美保 (ISHII, Miho)  
京都大学・人文科学研究所・准教授  
研究者番号：40432059

木村 真希子 (KIMURA, Makiko)  
津田塾大学・学芸学部・准教授  
研究者番号：90468835

志賀 美和子 (SHIGA, Miwako)  
専修大学・文学部・准教授  
研究者番号：80401157

杉本 浄 (SUGIMOTO, Kiyoshi)  
東海大学・文学部・講師  
研究者番号：70536763

舟橋 健太 (FUNAHASHI, Kenta)  
龍谷大学・現代インド研究センター・研究員  
研究者番号：90510488

松尾 瑞穂 (MATSUO, Mizuho)  
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准教授  
研究者番号：80583608

### (3)研究協力者

小嶋 常喜 (KOJIMA, Nobuyoshi)  
法政大学第二中・高等学校・特別教諭

鈴木 真弥 (SUZUKI, Maya)  
日本学術振興会・特別研究員 (PD)  
研究者番号：30725180

中溝 和弥 (NAKAMIZO, Kazuya)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授  
研究者番号：90596793

山本 達也 (YAMAMOTO, Tatsuya)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員研究員  
研究者番号：70598656